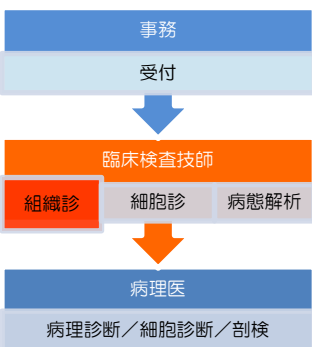


病理診断部の仕事の流れ ③ < 組織診 通常検体編 >



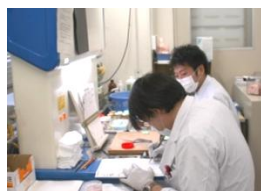
今回は、病理診断部で受付けた検体が、その後、どのような過程を経て病理診断を行うための標本が作製されていくのかを説明します。

以下は通常検体（外科切除検体、生検、外来小手術検体）の流れであり、検体はすべてホルマリン固定されたものです。

切り出し：提出された検体から組織標本を作製するため、適切な大きさにメスで切り取る作業。



外科切除検体
一晚以上固定後、病理医が切り出します。



生検、外来小手術検体
一晚固定後、午後に病理医が切り出し、臨床検査技師が介助しています。



内視鏡生検
毎日14時までに受付けたものは、その日の内に、臨床検査技師二人で切り出しをします。

再固定：切り出し後の検体について、さらに固定液を浸透させる過程。

脱水・脱脂：組織内に存在する水分や各種の脂質類を除去する過程。

脱灰：歯・骨・石灰化組織などの硬組織からCaを溶出して軟化させる過程。

これらの処理は必要に応じて行っています。
通常は1日～数日かかるが、脱脂検体（脂肪の多い組織、乳腺や皮膚など）、脱灰検体（歯、骨）は時間がかかります。

自動包埋装置での検体処理



切り出された検体を脱水・脱脂・パラフィン浸透まで一定の時間毎に自動的に進ませる装置。

翌朝に仕上がるように全行程16～19時間のプログラムで行っています。

検体受付および剖検受付時間

8:30 ~ 17:15 (内線2257)

注) 土・日・祝祭日は剖検のみ受付 (内線2257 or PHS18218)

包埋：パラフィンが浸透した組織片をパラフィンで固め、ブロックにする過程。



包埋皿に検体を入れ、溶けたパラフィンを注入し、冷却後に包埋皿からカセットを外し、余分なパラフィンをトリミングします。

(一日 約300ブロック作製)

薄切：パラフィンブロックをマイクロトームを用いて、組織片を薄く切る作業。

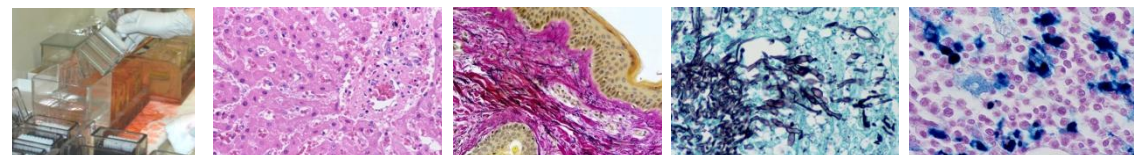


厚さ3 μm (腎生検は1 μm以下) に薄切します。
熟練の技が必要!

(4人で 一日 約800枚の薄切を行っています。)

薄切された切片を水槽に浮かべ、スライドガラスですくって貼り付け、伸展器52℃位で伸展、乾燥させます。

染色：HE染色 (一日約600枚)
特殊染色 (一日約130枚。病変に応じて50種以上の染色法を使い分けます)



HE 染色
(病理診断の基本です)
肝臓

ワザカギ-ソ染色
(膠原繊維や弾性繊維を染め出します)
皮膚

グロッド染色
(真菌を黒く染め出します)
肺

アリソ青染色
(鉄を青く染め出します)
骨髄

病理医による鏡検・病理診断

組織診担当者からのお願い

- 病理組織検査申込書に必要事項をきちんと記入して下さい。特に **瓶/袋数** を必ず記入して下さい。
- 検体に見合った容器に検体を入れて下さい。無理に押し込まないで下さい。
- 検体はきちんとホルマリンに浸してください。



病理の仕事はほとんど機械化できず、手作業の部分が多く、高度な技術が必要です。

また、標本ができるまでにはいろいろな行程があり、一定の時間がかかります。可能な限り、早く結果を出せるように努力するとともに、慎重に作業・検査を行っています。

病理診断部 組織診 臨床検査技師 一同



ニュースレター PATHO News 病理診断部 No.4 2009. 2. 25

発行 : 福島敬宜(ふくしまのりよし)

編集 : TEAM **だっだっだっだ**

飛田野清美(ひだのきよみ) 柳田美樹(やなぎたみき)
田村聖月(たむらみづき) 滝沢晴美(たきざわはるみ)